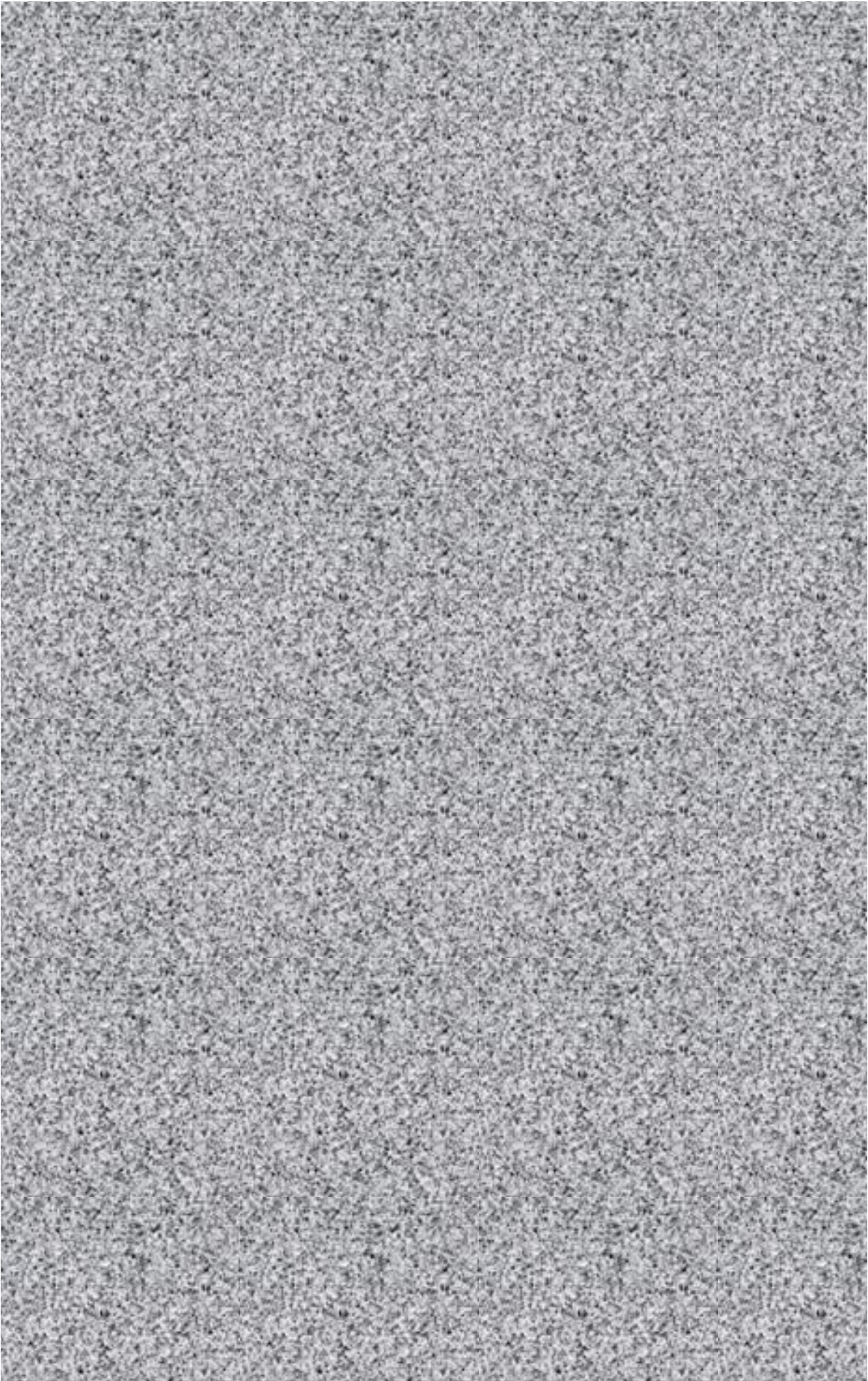


令和8年度 鹿児島女子短期大学 一般選抜二期 A 方式

本学選抜試験 (小論文)

受験番号	
------	--



設問. 以下の課題文は、ヘルシンキと京都の保育の違いについて述べているが、保育園に限定せず「働き方」についてあなたの考えを800字以内で述べなさい。

ヘルシンキで子どもたちが通った保育園では、先生たちは割と気軽に休んでいました。本人たちの産休・育休や病欠はもちろん、先生たちの子どもが病気になれば病欠をとり、年に二回くらいは旅行でお休みしていました。年に一回か二回はストライキが起き、学校の先生や病院の職員、保育園の先生たちもストライキをすることがあります。そういう時は、保護者も休んで子どもと家にいたり、リモートワークができる人は家で子どもがいる中で働いたりします。また、地域に一つは保育園が開いていて、ストライキに参加しない、あるいは部分的に参加する先生たちが、交代で子どもたちを見てくれるので、そのような保育園に預けることもできます。急に保育が欠けたら子どもや保護者に迷惑がかかる、と考えられるかもしれませんが、本当に子どもや保護者に迷惑をかけているのは保育者個々人ではなく、保育園の経営者や自治体、そして保育に予算を増やさない国の政策です。だから、その不備を個々の保育園や保育者が負う必要はない、そう考えれば、ストライキも仕方のないことと思えるでしょう。

子どものお迎えに行って、ちょうど帰ろうとしたところの先生に会い、気になることを相談しようとしたら「もう仕事が終わったので、お話は明日うかがいますね。モイモイ（さようなら）！」とさわやかにお別れされたことがあります。その時は「聞くだけでも聞いてくれたらいいのに」と思いましたが、今となっては、私がその先生の仕事時間以上に拘束しようとしたのが間違っていたとわかります。

京都で子どもたちが通っていた保育園では、先生たちは子どもたちの様子を教えてください、私たちの育児の悩みに乗ってください、子どもたちと私たちを支えてくださる最も心強い人々でした。京都の保育園で出会った先生たちを思い出すと、先生たちがとても親身になって、個人としての情熱や子どもたちへの愛情で、大

変なお仕事を乗り切っておられることを改めて感じました。私は、あの人たちががんばってくれることに満足感を得ていたから、ヘルシンキの保育園で「がんばらない」先生を見て驚いてしまうのではないか。日本で子どもがうるさいと言われるのは、保育者の人数が足りず、大人たちがいろんな行事や日々の予定で忙しくて、子どもへの注目が足りないからではないか。ヘルシンキにきて、子どもたちがあそぶ様子を静かに遠くから眺め、必要な時には休み、仕事の時間が終わればすぐに帰宅する先生たちを見て、自分が当たり前だと思っていたことの方がおかしかったのではないかと感じるようになりました。

（注）ヘルシンキ...フィンランドの首都。

出典：朴沙羅「がんばらなくても暮らせる場所から考えるーヘルシンキの公立保育園の体験から」（全国保育団体連合会『月刊・ちいさいなかま 7月号（769）』ちいさいなかま社、2025年7月1日、pp.35-36）